

毎日アジアビジネスレポート

特集号・タイのコーヒー

発行 毎日新聞社・毎日アジアビジネス研究所 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
編集協力 在京タイ王国大使館農務担当官事務所 <https://www.opsmoac.go.th/tokyo-home>

©2021 Mainichi Newspapers

タイのコーヒーを知る

山の暮らしを改善
自然と共生する栽培

赤く色づいたコーヒーの実を収穫するタイの少数民族の女性＝山下夏沙さん提供



福島県川内村に開店したカフェ・アメイソンの日本1号店
 =コードモインターナショナル社提供



赤いオウムが目印のCafe Amazonのトレードマーク=コードモインターナショナル社のホームページから

タイの巨大カフェチェーンを日本で 震災復興願い福島県浜通りに開店

カフェ・アメイゾン

タイ全土に2300店舗以上を展開する巨大コーヒーショップ・チェーン「Cafe Amazon」。その日本店が東日本大震災で大きな被害を受けた福島県の浜通りにある。運営しているのは大阪市旭区に本社を置く、環境に優しいものづくり企業「コードモエナジー」の関連会社「コードモインターナショナル」社だ。コードモエナジーの岩本泰典社長が「震災復興の支援になれば」と自社の工場を開設した福島県川内村に、カフェ・アメイソンの日本1号店を開店した。

タイの「Cafe Amazon」は、石油、天然ガス事業を営む同国最大規模の企業「タイ石油公社」(PTT)が運営している。PTTのガソリンスタンドへの併設を中心に店舗を拡大し、赤いオウムがトレードマークのコーヒーショップは全国至る所で目にすることができる。

一方、岩本社長とタイとの関わりは1990年代、日本青年会議所を通してタイで障害者やエイズ孤児の自立を支援するNGOの活動に加わったのがきっかけだ。

たまたま通訳として働いてくれた男



電気を使わずに発光する「ルナウェア」
＝毎日新聞社撮影

福島とタイを結ぶコーヒー ブランドを大切に育てたい

性が地方のLPガス販売会社で働いており、男性を通じてPTTのエリアマネジャーと知り合いになった。さらに

そこからPTT本社の副社長へとつながり、岩本さんは同社やタイ国鉄などの幹部に人脈を広げた。

岩本さんが経営する「コドモエナ

ジー」は、有田焼の釉薬を塗る技術に応用して蓄光顔料を陶磁器タイルに厚く焼き付け、明るさを長時間保つ蓄光タイル「ルナウェア」を開発。2012年に「第4回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞」を受賞した。東日本大

震災の直後で、電気を使わずに発光する環境に優しいタイルを被災地で製造し復興に役立てたいと、東京電力福島第1原発から20キロほどで一時は全村避難となりながら、いち早く「帰村宣言」を行った川内村に工場の開設を決断した。

岩本さんは川内村に工場を開いて雇用を創出するだけでなく、地域の交流拠点となるようにと古民家を改造したコミュニティ拠点もオープン。「福島の現状を見たい」というPTT幹部らを村に招待して地元の手料理でもてなした。交流を重ねるうちに、PTT側から「Cafe Amazonを日本

でやってみたいか」と誘われた。日本でのフランチャイズ権を得て、タイから直輸入した豆だけを使ってコーヒーをいれる「カフェ・アメイゾ

ン」日本1号店を村にオープン。さらに福島県楢葉町にあるJヴィレッジにも店舗を開設した。

イメージで全国展開したら日本では大手カフェチェーンと同じブランドイメージになる。タイ産の豆は日本で専門家のカップピングを受けても非常にクオリティーが高く、福島の復興にも寄与しながら、大手チェーンとは違う日本のカフェ・アメイゾン育てていきたい」と岩本さん。



2017年7月、川内村視察の際にカフェ・アメイゾンに立ち寄り、コーヒーを飲みながら岩本社長（右）と懇談する安倍晋三首相（当時） Ⅱ毎日新聞社（代表撮影）

2018年にタイのサッカーチームの少年たちが洞窟に閉じ込められた事件は、北部チェンライ県のコーヒーが栽培されている山間部の、まさにそのエリアで起きた。岩本さんは救助活動に役立ててもらおうと、暗闇で発光する自社のルナウェアを現場に届けた。救出された後、岩本さんは少年たちを日本に招待し、サッカーの関連施設見学や桜の花の下での花見を経験してもらった。

「PTTはタイを中心にオマーン、フィリピン、ラオス、カンボジアなどにもCafe Amazonを展開しているが、そのなかで店から桜の花や雪を見ることをできるのは日本店だけ」。岩本さんはそう胸を張る。